平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ２１２ ※記入不要	提案機関名	湘南家畜保健衛生所

要望問題　移入動物対策推進の為の基本調査ならびに具体的かつ効率的な処分体制の確立

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

１背景

現在、有害鳥獣の許可権限は一部の市を除き県から市町村に委譲されているが、これでは広域的に被害が出ている場合効果的で画一された対応をとる事が出来ないので、非効率的である（各市町村によって対応の仕方がまちまちである為）。

最近の国内外の伝染病の発生状況でも分かるように SARS（ハクビシンより感染）トリインフルエンザ（野鳥より感染）ヘンドラウイルス（コウモリより感染）ニパウイルス（コウモリより感染）と言った野生動物から人に感染する新しい人獣共通感染症が問題になっており狂犬病（野犬、アライグマが主要な感染源）も中国では増加傾向にある。

さらに、野外における移入動物の増殖はシカやサルと言った在来の有害鳥獣と異なり人に対する農作物や生活被害ばかりでなく、その地域の生態系を破壊し近い将来多くの生物が絶滅の危機に追いやられる危険性が大きい。

※固有種保護のために移入種駆除を推進している自治体として北海道（アライグマ）、東京都（ノヤギ）、滋賀県（ブラックバス）、沖縄県（マングース）等がある。

このような中､県内では有効な捕獲駆除がなされないまま移入動物であるアライグマ､ハクビシンが爆発的に増殖し、その生態や保有している病原体については殆ど解明されていないのが実情である。

２内容

１の背景の状況を踏まえ市町村、捕獲業者と協力してアライグマ、ハクビシン､タイワンリス対策のために情報収集（何時、何処で、どのような状況で、どのような個体が捕獲されたのか）を行い対策の為の基本計画を策定、実行する。

また、捕獲された個体から糞便、血液の採材を行い大学・研究機関に提供する事により人獣共通感染症の危険性の有無を確認する。

３対象地域及び規模

基本的に県内全域とするが、特に被害が集中している横須賀三浦地域、横浜市、藤沢市、相模原市を重点対策推進地域とし被害の拡散を防ぐ事に努める。

規模としては年間の捕獲目標を設定し目標頭数を駆除した場合の効果測定（被害の増減などにより判定）を行い修正するが発足当初は各種（アライグマ､ハクビシン、タイ　ワンリス）年間３０００頭程度が妥当と思われる。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内 出来るだけ早い解決を希望するが、５～１０年はかかってしまうと思う
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他 県、市町村、捕獲業者の協力体制のもと推進、大学・研究機関とも共同で生態解明をすすめていく
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター 出来れば衛生研究所、動物保護ｾﾝﾀｰも共同で取り組んでもらえるとベスト

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所

部　　署：企画調整部

対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等

野生鳥獣の被害防止対策については、各所とも研究体制等が整っていないため、当面実施することは困難です。しかし、国のプロジェクト研究や他県においては被害防止に関する試験研究が進められていますので、関係行政部局とも連携を図り、情報の収集・提供に努めます。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内

備　考